横須賀の2040年を考える学習会 第4回

～無縁社会～
"独居高齢者"の孤立死を考える

―― 著増が予測される未婚男女や独居生活者の多くが抱える、
その人生の最終章の課題…
それが、孤独と貧困の介護難民化であり、
無縁社会の犠牲者としての孤立死問題である ――

2019年5月25日(土) 14:00～17:00

横須賀市医師会館 大会議室

横須賀市新港町1-11
TEL 046-822-0542

参加無料

- オープニングトーク　千場　純（横須賀市医師会副会長）
- 映画　「LONELY DEATHS（孤独死）」
（チャンネルニュース・アジア・インターナショナル「アンダーカバー・アジア」より）
- 講演　「超孤独死社会 孤独死の現場で今、起きていること」
菅野久美子 氏（ノンフィクションライター）
- 講演　「私の終活登録」　北見　万幸 氏（横須賀市福祉部 福祉専門官）
- 講師と地元関係者によるディスカッション

参加ご希望の方は、横須賀の 2040 年を考える会ウェブサイト
https://yokosuka2040.org/event/entry.shtml
よりお申し込みください。
（携帯、スマホからも登録できます。下のバーコードをご利用ください）
※５月 18 日までにお申し込みください

主催：横須賀の 2040 年を考える会
共催：横須賀市医師会
後援：横須賀市、横須賀市社会福祉協議会、
横須賀市民生委員児童委員協議会、横須賀市行政書士会

講演　「超孤独死社会　孤独死の現場で今、起きていること」

講師：菅野久美子 氏

ノンフィクションライター。
著書に『超孤独死社会　特殊清掃の現場をたどる』(毎日新聞出版)『孤独死大国予備軍1000万人時代のリアル』(双葉社)がある。
また、東洋経済オンライン等のウェブメディアにて、『30～40代がいずれ迎える「大量孤独死」の未来』『30～40代の「孤独死」が全く不思議でない事情』などの記事が大きな反響を呼ぶ。

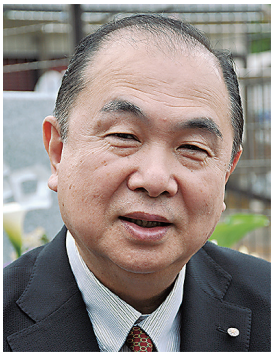
講演概要

家で誰にも看取られず、一人部屋で最期を迎える孤独死。
ニッセイ基礎研究所の調査によると、その数は年間約3万人と言われている。しかし、現実に孤独死現場で長年取材を続けている立場からすれば、その数倍は起こっているという実感がある。
孤独死の最後の後始末をするのは、右肩上がりで増え続ける特殊清掃業者である。私はこの特殊清掃業者の現場に密着し、孤独死者のご遺族や管理会社、大家などに取材を重ねることで、なぜ故人が孤独死したのかという背景を追い続けている。
孤独死は、「社会的孤立」の問題と相関関係がある。
私の概算によると、日本人の1000万人が孤立状態にある。これはとてつもなく大きな数字だ。そして、もっとも孤立した状態に置かれているのは、実は高齢者でなく、団塊ジュニア、ゆとり世代なのである。そのため、孤独死は高齢者だけの問題ではなく、日本全体を覆う深刻な社会問題だといえる。
今、孤独死の現場で何が起きているのか。そして、孤独死が起きるとどのような実務的な問題が発生するのか。皆様と一緒に、紐解いていきたい。

講演　「私の終活登録」

講師：北見　万幸 氏

横須賀市福祉部　福祉専門官。元・生活福祉課自立支援担当課長。
終活内容を市に登録する「終活情報伝達事業」とその基となった「エンディングプラン・サポート事業」を発案。



講演概要

2000年ごろから、多くの自治体で引き取り手のない遺骨が急増してきた。その多くは、身元も分かり親族もいる、ごく普通の住民のものだ。家族・親族はそれほどまでに冷たくなったのか。
2015年に予防策として始めた、わが国初の行政版：終活支援事業。その事業を通じて見えた、引き取り手のない遺骨が鳴らす警鐘と驚きの事実。
事態回避のために、今、行政が打つべき手は何か。

主催：横須賀の2040年を考える会

2040年、人口減による楽観できない社会が到来するととらえ、地域や社会への危機意識を共有する人々の想いをカタチや行動として展開していくことが求められています。
この会は、一つの固定した集合体と考えるのではなく、ネットワーク型の柔軟なつながりであり、地域の課題として、医療、コミュニティ、福祉、子育て、高齢者介護、まちづくりなどについて、それぞれのメンバーの方々が関わっているフィールドに共感し、方法や情報を交流させたり、プロジェクトでのマッチングや協働において、共に行動してゆけるプラットホームです。

Think about YOKOSUKA 2040

https://yokosuka2040.org